

1917. 10. 24～

レーニン ロシアへ帰る

五九三 エム・ヴェ・フォファノヴァあての短信

あなたが行かせたがらなかったところへ出かけます。さようなら。

イリイネ

1917年10月24日(11月6日)に執筆

第43巻 P820

ロシアの市民へ！

臨時政府は打倒された。国家権力は、ペトログラード労働者・兵士代表ソヴェトの機関——ペトログラードのプロレタリアートおよび守備隊の先頭に立つ軍事革命委員会——の手に入った。

人民が闘争の目標としてきた事業、すなわち民主主義的講和の即時の提議、地主の土地所有の廃止、生産の労働者統制、ソヴェト政府の樹立という事業は保障されている。労働者、兵士、農民の革命万歳！

ペトログラード労働者・兵士代表ソヴェト軍事革命委員会

1917年10月25日、午前10時

第26巻『ロシアの市民へ！』P243

『ラポーチー・イ・ソルダート』第八号、1917年10月25日(11月7日)

ペトログラード労働者・兵士代表ソヴェトの会議

第26巻事項訳注 P558

10月25日(11月7日)午後二時三十五分にひらかれた。軍事革命委員会は革命の勝利についてペトログラード・ソヴェトに報告した。ソヴェト会議ではレーニンの演説後、多数決でレーニンの書いた決議案(本巻、246ページ)が採択された。

労働者・兵士代表ソヴェト第二回全ロシア大会

第26巻事項訳注 P558

1917年10月25日(11月7日)午後十時四十五分、スモーリヌイでひらかれた。大会では、318の地方ソヴェトが代表をおくっていた。241ソヴェトの代議員がボリシェヴィキの委任状をもって大会に出席した。メンシェヴィキ、エス・エル右派およびブンド派は、大会がひらかれたのち、社会主義革命を拒否して大会から退場した。大会はレーニンの書いた檄文『労働者、兵士、農民諸君に！』(本巻、247～248ページ)を採択した。大会における主要な問題は、ソヴェト政府の樹立、土地および平和についての布告の採択であった。講和の問題、および土地の問題については、レーニンが報告をした。

第二回ソヴェト大会は、ソヴェトへの権力の移行を宣言するとともに、平和についての

布告と土地についての布告を採択し、最初のソヴェト政府——人民委員会議を打ち立てた。

大会は、101名からなる全ロシア中央執行委員会を選出したが、そのなかへはポリシェヴィキ62名、エス・エル左派29名、その他がはいった。大会は、1917年10月27日（11月9日）午前五時十五分に閉会した。

ヴィクジェリ（鉄道従業員組合全ロシア執行委員会） 第26巻事項訳注 P559～560

1917年八月、モスクワの鉄道従業員第一回全ロシア創立大会で選出されたヴィクジェリのメンバー41名のうち、エス・エルは14名、メンシェヴィキは6名、人民社会党員は3名、無党派11名であった。十月革命ののち、ヴィクジェリは反ソ活動の中心の一つとなった。1917年10月29日（11月11日）、ヴィクジェリは、すべての「社会主義」諸党をもって政府をつくる必要があるという決議を採択した。この日、この問題についてポリシェヴィキ党とヴィクジェリとのあいだに交渉がひらかれた。レーニンおよび中央委員会の指令により、この交渉は「軍事行動の外交的掩護物」として役立つはずであった。カーメネフとソコリニコフは、ヴィクジェリとの交渉で背信的な態度をとった。彼らは、「社会主義」政府をつくり、そのなかへはポリシェヴィキとならんでエス・エルおよびメンシェヴィキの反革命的な諸党の代表者が参加すべきだというヴィクジェリの要求に、妥協した。カーメネフとソコリニコフの裏切り政策は、ノーギン、ミリューチンおよびリュコフによって支持された。11月2（15）日、ポリシェヴィキ党中央委員会は、これらの反革命的諸党との協調に反対したレーニンの決議案を採択し、一方、カーメネフとジノヴィエフを革命のストライキ破りとしてきめつけた。決議案に反対投票をしたのは、カーメネフ、ジノヴィエフ、リュコフ、ノーギンおよびミリューチンである。

農民代表ソヴェト臨時全ロシア大会

第26巻事項訳注 P561

第二全ロシア中央執行委員会の決定によって召集された。大会は1917年11月10～25日（11月23日～12月8日）ペトログラードでひらかれた。大会の構成は、ニス・エル左派110名、ポリシェヴィキ40名、ポリシェヴィキ同調者（ウクライナ人）15名、エス・エル右派および中間派50名、無党派40名である。農民代表ソヴェトの旧エス・エル右派的執行委員会は、大会のひらかれる前夜、これをぶちこわそうと試みたが、しかしこの試みは失敗した。

大会をぶちこわそうとするエス・エル右派執行委員会の努力、およびエス・エル左派の動揺にもかかわらず、農民代表ソヴェト全ロシア臨時大会は、権力の問題で、労働者・兵士代表ソヴェト第二回全ロシア大会の立場に立った。大会で選出された臨時執行委員会は、全ロシア中央執行委員会と合流した。11月15（28）日、全ロシア中央執行委員会、農民代表ソヴェト臨時全ロシア大会、およびペトログラード・ソヴェトの第一回合同会議がひら

かれた。この会議で、平和、土地、および労働統制にかんする布告や条令を確認した決議案が採択された。1917年11月25日(12月8日)に第二回農民代表全ロシア大会を召集するという決定が採択された。

農民代表第二回全ロシア大会

第26巻事項訳注 P563

1917年11月26日～12月10日(12月9～23日)、ペトログラードでひらかれた。大会の提唱者であったエス・エル右派的中央執行委員会は、代議員の数において彼らの支持者ができるだけ多数となるような策を講じた。大会には、表決権をもった代議員790名が出席したが、そのうち、エス・エル右派は305名、エス・エル左派は350名、ボリシェヴィキは91名であった。大会は緊張した空気のなかでおこなわれた。憲法制定議会の問題をめぐる、エス・エル左派に支持されたボリシェヴィキと、エス・エル右派とのあいだに、とくにはげしいたたかいが展開された。意見の相違は大会を決裂に導いた。エス・エル右派は大会から退場し、別個に会合した。ボリシェヴィキはエス・エル左派とともに、農民代表第二回全ロシア大会の活動をつづけた。大会は、レーニンが草案を書いた農民にたいする檄を採択した(本巻、377～382ページ)。

ブレスト講和について

第26巻事項訳注 P565～566

(レーニンと)ブレストにいるロシア代表团との直通電話による会話は、ドイツとの講和交渉中のことである。この講和交渉は、1917年十二月3(16)日ブレスト-リトウスクでひらかれ、12月5(18)日に停戦協定が調印された。

メンシェヴィキおよびエス・エルから白衛軍にいたるあらゆる反革命派は、講和の調印に反対した。この悪事で彼らと同盟していたのは、トロッキーとブハーリンであって、ブハーリンはラデックやピャタコフとともに、「左派」と自称していた反党グループを指導していた。ブレストのソヴェト代表团長であるトロッキーは、ソヴェト共和国がドイツの提案した条件で講和に調印することを拒否すると言明し、しかもそれと同時に、ソヴェト共和国は戦争をしないであろうということ、そして軍隊の復員を続行しつつあるということドイツ人に知らせた。

レーニンとスターリンが中央委員会の名であたえた講和調印の指示にもかかわらず、トロッキーは、党の直接の指令を踏みにじて、自分の裏切りの意図を実行した。1918年1月28日(2月10日)、講和交渉は決裂した。2月18日、ドイツ軍の攻勢がはじまった。この日、党中央委員会はレーニン、スヴェルドロフ、スターリンの提案によって、ソヴェト政府は講和の締結を受諾するという電報をドイツ政府へおくることを決定した。(本巻、541ページをみよ)。

憲法制定議会の解散についての布告

第 26 卷事項訳注 P567

憲法制定議会の解散についての布告は、1918 年 1 月 6 (19) 日、人民委員会議の会議で討議された。この会議のためにレーニンは『憲法制定議会の解散についての布告要綱』を書いた。それは読み上げられ、逐条採択され、すべての条項が変更なしに採択された。この要綱は、おなじ日にレーニンの書いた憲法制定議会の解散についての布告の基礎となった。憲法制定議会の解散についての布告は、1918 年 1 月 6 日から 7 日 (19 日から 20 日) にかけての深夜に、全ロシア中央執行委員会によって採択され、新聞『イズヴェスチヤ』の 1918 年 1 月 7 日づけ第五号で発表された。

講和問題

第 26 卷事項訳注 P567

一時「左派」に乗っ取られたロシア社会民主労働党 (ボ) モスクワ州ビューローは、1917 年 12 月 28 日 (1918 年 1 月 10 日)、ドイツとの講和交渉中止と戦争継続との要求をふくんだ、中央委員会不信任という分裂主義的決議案を採択した。講和の問題では、党はレーニンのまわりに結集し、党中央委員会を支持した。「左翼」グループは孤立し、撃破された。1918 年 3 月の第七回党大会は、ブレスト講和にかんするレーニンの決議案を採択した。

第 26 卷事項訳注 P569

講和問題解決のため、「左翼」グループは、党協議会を召集することを要求した。レーニン、スヴェルドロフ、スターリンその他は、この要求に反対した。党中央委員会は、1918 年 1 月 21 日 (2 月 3 日) に党会議を召集し、1918 年 3 月 5 日に第七回党大会をひらき、そこで講和問題を最終的に解決すべきだというレーニンの提案を採択した。

労働者・兵士・農民代表ソヴェト第三回全ロシア大会

1918 年 1 月 10 (23) 日にひらかれた大会には 317 の労働者・兵士・農民代表ソヴェトと、110 の方面軍・軍団・師団各委員会が代表をおくった。全部で 707 名の代議員が大会に出席した。三日後、250 以上の農民代表ソヴェト——1月 13 (26) 日にひらかれた農民代表ソヴェト第三回全ロシア大会の参加者——の代表が大会に合流した。大会代議員のうち 441 名はボリシェヴィキであった。レーニンは大会で人民委員会議の活動について報告し、結語および閉会の辞を述べた。ボリシェヴィキ代議員団の提案によって、大会は、全ロシア中央執行委員会および人民委員会議の政策を完全に支持する決定を採択した。

1918 年 1 月 12 (25) 日、大会は、レーニンの書いた『勤労被搾取人民の権利の宣言』を確認した。

大会の開催中に代議員の数はたえず増大し、最後の会議では議決権をもった 1587 名の代議員が出席した。大会は、306 名からなる全ロシア中央執行委員会を選出した。大会は 1918 年 1 月 18 (31) 日にその仕事をおえた。

第 26 卷事項訳注 P567~568